

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001500		
法人名	(有)ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム名古屋中川の家		
所在地	名古屋市市中川区吉津四丁目1303番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成22年5月19日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成22年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、職員が一つになり出来る限り地域との協力のもと日常生活をより楽しく心がけ、日々作品作り、歌などで活気あるホーム生活を実行している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは前面に公園の豊かな樹木を、また、周りの畑の緑や花々を目にして季節を感じる事が出来る静かな環境にある。昨年8月に管理者が替わり、職員と連携を図り新たなホームの体制づくりに取り組んでいるところである。利用者や家族とのコミュニケーションを図り、利用者には主体的で活き活きとした笑顔で過ごしてもらえるホームを、また、家族とは遠慮のない相談や情報交換ができるホームを目指し、各職員が把握した要望や意見をサービスに反映させるように努力している。また、職員は利用者の高齢化に伴うより良いサービスの提供と充実の為に研鑽に励み、なお、専門的な資格取得にも意欲をみせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を玄関に飾り毎日出勤の度に目に入るようにしてあり、定例会議の際には必ず理念に触れ確認し合っている。	昨年の8月に運営理念をより具体的に変更し、職員の認識を深めると共にサービスへの反映に努めている。日々の見守りと観察に重点を置き、利用者が安全に笑顔で暮らせる支援に取り組んでいる。	朝礼や会議で理念の触れる場を増やし、パート職員も含めた理念の意識化に努め、サービスに反映させるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの門はいつも開けられてあり近隣の方が気軽に立ち寄れるようにしている。またどなたにも笑顔であいさつするよう心がけている。	自治会に加入し地元の小学校の「ふれあい祭り」に参加したり、ホームに地域ボランティアの落語や尺八演奏の人を迎えている。又、日頃から近所の方がホームに立ち寄り、利用者と一緒に談笑されるなど、地域との交流を大切にしている。	今後はホームの行事に地域の人や小学生などを招待し、多くの人にホームを知ってもらおう働きかけを行い、交流の輪を広げていくことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の見学は突然であっても快く受け入れ相談があればお茶を飲みながらゆっくり話を伺う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者家族や近隣住民の希望や要望を積極的に聞き、それらを実践することで一定の評価を頂いている。	会議の場を通し民生委員から地元の情報を提供してもらったり、地域推進会議主催の昼食会「つくしの会」に参加し、利用者や地域の人との交流の場が出来た。	今後は2ヶ月に1回の会議を定例化に努めまた、地域包括支援センターなどに参加協力を呼びかけることを望んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	もっとも身近な区の福祉課の担当者には日ごろから相談させて頂いておりアドバイスを受けている。	介護保険その他関係する法改正などで質問や疑問が出た際は、すぐに区の担当者に連絡し情報を提供してもらうなど、連携を密にするよう心がけている。	市が主催している研修や講習などに、パートを含むすべての職員が参加できるような環境づくりを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年数回の研修プリント物での朝礼の申し送りでは特に拘束をしないということを大切なことと指導している。また職員が2名以上になる9:00～18:00までは施錠をしない事が施設の大切なとりきめになっている。	法人主催の研修に参加し、各職員が拘束について学び、サービスに反映できるよう心がけている。日中は玄関のカギは施錠せず利用者が思うように行動できるように配慮され徘徊する利用者にもその都度付き添い、寄り添う姿勢を大切にしている。	ホーム内で定期的に「拘束についての勉強会」を行い、パートを含むすべての職員が、具体的に何が拘束にあたるかの知識を身につけ、実践することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修では虐待防止の徹底は重ねて学習しており職員は学習した事をレポートにまとめ提出し認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には権利擁護事業を利用している方がいるので勉強になり助かっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、またご家族には十分な時間をかけ説明している。また疑問点などがあった場合には本部に確認し正確な回答に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時には管理者、職員が同席させていただく時もありご家族・利用者様が気軽に話せるような挨拶声かけを心がけている。	家族が来所した際は、必ず声をかけ利用者の状況報告を行うと共に要望を聞くようにしている。また、苦情や意見が出た際は、職員同士で話し合いを行い、早い段階で改善案を出して解決するよう努めている。	利用者のホームでの暮らしぶりや行事などを定期的に家族に知らせていくようにしていきたい。今後、家族が参加できるホーム行事を設け、交流を深められる場を増やしていく予定である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議カンファレンスでは管理者が必ず出席し職員の意見を聞き全員で考える機会をもうけている。	業務体制や内容で改善案や要望が出た際は、その都度全員で話し合い、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内における研修を半年に一回常勤職員を対象に実施している。外部研修については研修費の補助を行うことで積極的な参加を促している。外部研修については勤務調整を行い常勤、パート職員とも自分の休日を利用して参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における研修を半年に一回常勤職員を対象に実施している。外部研修については研修費の補助を行うことで積極的な参加を促している。外部研修については勤務調整を行い常勤、パート職員とも自分の休日を利用して参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での見学、交流によりサービスの質の向上を目指しているがホームが大きな法人に属し見学や交流は内部で実施できるため外部との交流は少ない。今のところ外部からの研修や見学は受け入れておらず外部との交流の機会は少ない。時間の許す限りGH連絡会議や名会研などの研修に参加していきたいとの希望がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方には必ず本人の望んでいることを聞き、うまく伝えられない方に対しては会話の中で本人の希望や不安に思っていることを把握できるようにし、それらを一緒に一つ一つ対処していくことで信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の生活の中で、些細な発見や、変化は記録に残し家族に話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時や、入居後などには家族の方には時間の許す限り面会に来ていただき本人や家族、スタッフなどを交え問題点や本人の希望を徹底的に話し合う事でより良いサービスを行うことに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、食器洗い、洗濯物たたみなどを一緒に行いお互いを支えあう環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などに日常生活の様子をお伝えし、その様子を見て頂くことにより家族の要望などを		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、住んでいたところの近所の方が来られることがよくあり、居室で話をしたりされている。	利用者の友人が遊びに来たり、以前から利用していた美容院や喫茶店へ出向くなど、利用者が慣れ親しんできた場所や人との繋がりを大切にした支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月の行事、イベントなどにむけ職員全員で準備をしたり話し合ったりして職員同士常と同じ目標にむけて情報を共有したり助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方の見舞いや、葬式に行くなど家族や本人にとっていつまでも忘れられない家であるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、利用者様同士の会話や職員に話して下さる内容などから本人の希望などを把握するよう心がけ職員同士も気付いた事は話し合っている。	意思疎通の出来ない人には話しかけ表情を見て察したり、絵を描いてもらう時もある。他家族からも情報を収集して本人の希望に寄り添えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時には家族や本人などに今までの暮らしを聞きその会話の中から必要な情報を具体的に捉えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で出来ることを見つけ出来る限り自分でして頂くよう補助、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の様式を変更しわかりやすくなった。利用者、家族の思いや希望を聞き介護計画に反映させるよう努めている。家族にも説明して聞いてもらっている。	入居後3ヶ月でモニタリングを行い、その後は状態変化がなければ6ヶ月となっている。介護計画は月1回家族の要望を踏まえ利用者個々の検討会を行い、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護詳細に記入されており職員間で共有されている。また月一回のカンファレンスで話し合いがなされ介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望に応じ、美容院への送迎や、買い物などにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの利用者の必要性に応じ民生委員の協力を得たり消防の協力文化教育施設などの利用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に通院している利用者もいるが、他は協力医による往診や受信を受けている。歯科は協力医のところに職員が送迎している。	利用者は協力医にかかる人が多数で月二回の往診がある。入居前から専門医に通院している人の受診は家族にお願いしている。その時には必要な情報は伝えている。協力医と専門医は書面で連携は取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には必要な身の回りの物や洗濯物などを家族同然に行うこともしばしばありその都度病院関係者と顔を合わせるので密に相談を行い早期の退院に少しでも役立つよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族に理解を得るため医師看護師に相談し、指導を頂きながら家族と共に支援できるように努力している。	入居時に重度化や終末期に向けた方針は家族に説明している。医療行為が必要になり、適切なサービスが困難になった場合、利用者・家族、医師、看護師、職員と話し合い、利用者にとって一番良い方法を検討して、他の施設を進める時もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については会議などで常に指導を受けている。地域の消防署で行われる救命講習等はすすんで参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を目標に昨年12月に行われたが地域との協力体制まではできていない。	避難訓練は利用者をホーム前の公園まで誘導して、避難経路の確認をしている。夜間想定は行っていない。備蓄品は3日分ほど用意している。救命講習を随時職員は受けている。	消防署職員に、再度避難経路の確認と防災や水害対策の指導を受けて定期的に避難訓練をされることを望んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニットごとのミーティングや申し送りノート等で確認をし職員の意識向上を図り利用者の誇りやプライド、プライバシーを損ねない対応を心がけている。	職員は利用者と接する時は人生の先輩として尊敬しており、プライバシーには気を使っている。個人情報保護については関係書類は事務所に保管するなど十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの声かけや訴えについては職員が十分話を聞くよう心がけている。希望にはなるべく添えるよう職員間で話し合い調整し支援できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や日光浴など基本となる一日の流れはあるが一人一人のペースや希望に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服や身の回りのものがほしいときは職員が付き添い買い物に行っている。美容院の送迎も希望があればしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見や希望を聞きながら献立作りをしている。検食者は利用者と一緒に食事をしている。配ぜんや下膳を手伝ってくださることもある。	献立は5日分ずつ決めており、たまに、新聞のチラシを見て決めることもある。食事中は職員が食べこぼしなどさりげなくサポートしている。行事食は月1回あり楽しみの一つとなっている。	気分転換に外食を考えてみてはどうか検討を期待している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は一汁三菜を目安にし、バランスの取れたものを心がけ個々の摂取量も、介護記録の記入している。状況に応じきざみ食にも対応している。水分については一日1000cc以上飲むよう声をかけ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの自立していない利用者については職員が声かけ介助によって朝、夕行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は回数、時間の状況を記録しており、自立していない利用者には声かけ誘導もしている。	職員は排泄パターンを把握しており、声をかけてトイレでの排泄に努めている。また、失禁時にはさりげなく居室に誘導して羞恥心に配慮している。排便も気をつけて毎日確認をして食材などにも気をつけて自然排便が出来る様にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事では野菜や水分をなるべく多く摂るようにしている。散歩等体を動かすよう声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日14:00~15:30利用者の体調や希望に合わせて支援している。季節に合わせて柚子風呂や桜を浮かべるなどの工夫をしている。仲の良い利用者同士で会話をしながら入ったりしている。	入浴は同性介助を心がけている。入浴拒否のある人はタイミングを見計らい声をかけているが、無理強いはいしない。しかし、週3回は入浴してもらうように工夫している。	入浴時間も利用者の希望に添った時間を検討することを望んでいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、居室に入り横になられる事もあるが屋敷程度にして頂き昼夜逆転しないように見守りをしている。シーツ洗いや布団干しなど定期的に行い気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は管理表により、チェックされ変更等があった場合は全員に分かるよう、申し送りされ服薬時は3人の職員によって確認がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意分野で力を発揮してもらえるよう支援している。洗濯物たたみ、掃除機かけなどをして頂きたときには感謝の言葉を伝える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じてもらえるよう利用者の体調や気分にあわせ散歩や買い物等に出かけている。	ほぼ毎日、前の公園や近隣に散歩している。また利用者の買い物やたまには喫茶店に寄ったりしている。花見など弁当持参で出かける時もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かった小遣い金は管理させて頂いているが、本人が買い物に行かれる時は持っただき支払いは職員の見守りのもとでして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間、早朝を除き本人の希望があれば事務所の電話を使い、友人や家族に電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いす利用者が移動しやすいよう椅子やテーブルを配置しておりテレビを自由に見られるようにソファも配置されている。行事の写真や利用者様の作品を飾っている。	居間には職員と利用者の共同作業の季節を感じる切絵や貼り絵が飾ってある。室温も適温で居心地が良い。玄関にはベンチが設置しており、利用者家族からの季節にあった鉢植えのプレゼント品やプランターの花が咲いているのを観て寛いでいる人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所は決めさせていただいているが仲の良い利用者様同士、自由に動き話ができるよう椅子やソファの配置等はされているが共有空間のなかで一人になれる場所はつくられていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやカーテンは備え付けであるが使い慣れたタンスや日用品を持ち込んでいただき個々の居室づくりをされている。	居室にはテレビ、三面鏡、写真、ホームで作成した作品などが置いてあり、それぞれの好みに合った居心地の良い居室と感ぜられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングには余分なものを置かないよう注意、指導されている。トイレには大きく紙で書いた表示がしてある。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	自治会に加入し民生委員や回覧板から地域の情報入手し、地元のお祭りや区主催の昼食会などに参加し地域交流に努めている。尺八や落語などの地域ボランティアを定期的に迎え利用者の楽しみとなっている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	地域代表者、民生委員、家族の参加協力を得て会議を実施している。利用者が楽しみにしている野外での行事や活動への参加の機会を増やす為、地域と協力し実施できるよう話し合い計画していく予定である。今後は地域包括支援センターや区の担当者に参加への働きかけを行うと共に、2ヶ月に1回定例化し会議を開催できるようにしたい。	×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市が主催している研修や講習会などの情報を積極的に取り入れたり、日頃から区や市の担当者との情報交換や連携を図り、ホームのサービスの質の向上に繋げていきたい。	×
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	運営推進会議などで出された利用者や家族からの意見や提案は、すぐに職員会議などで検討し業務に反映するよう努めている。また、利用者や家族がどんな些細なことも気軽に話せるような雰囲気作りをし、ひとつでも多くの意見が開けるよう心がけている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が日々生き生きと楽しく過ごせるよう、近所の千音寺小学校の「ふれあいまつり」と一緒に参加したり、各職員がレクレーションや行事の提案を積極的に出し合い実践に繋げるなど、いろいろなことに利用者に参加できる環境づくりに力を入れている。ホーム内での作品作りや歌会などのほか、地元や家族を交えてのホーム行事や野外行事を利用者と一緒に計画し、地域の人から身近な存在になれるようなホームを目指している。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

